

大学生による教授評価、人種・性別などへの既成概念が評価に使用する
形容詞に反映（3月4日）

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（University of Illinois at Urbana-Champaign）心理学教授のアンドレイ・シンピアン氏（Andrei Cimpian）らは、大学生による大学教員評価「レート・マイ・プロフェッサーズ（RateMyProfessors）」において教授を形容するために使用される単語の傾向に関する研究結果をまとめた論文を「プロス・ワン（PLOS ONE）」で発表した。本研究は、大学教員に関する評価約1,400万件に基づくもので、これによると、「素晴らしい(brilliant)」「天才 (genius)」などといった単語は、男性教授を形容するために使用される割合が女性教授の2~3倍で、さらには、女性及び黒人教授数の少ない物理学や哲学などの分野の教授に対して多用されることが明らかにされた。学生による教授評価は義務付けられていないことから、「RateMyProfessors」に記載されたコメントは自発的なものと考えられており、何らかの理由でこれらの単語が白人男性教授を形容するために使用される傾向が高いことになる。本論文の共同執筆者である同大学所属の大学院生ダニエル・ストレージ氏（Daniel Storage）は、「天才」が白人男性に関連するという文化的既成概念を変える必要があるとした他、大学研究者に関しても「勤勉 (hard work)」「意志の強さ (determination)」などの特徴が重視されるべきとコメントしている。

なお、本論文は、<<http://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0150194>>から閲覧可能。

Inside Higher ED, My Brilliant (White Male) Professors

<https://www.insidehighered.com/news/2016/03/04/study-links-professors-race-and-gender-brilliant-and-genius-ratings-ratemyprofessors>